

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



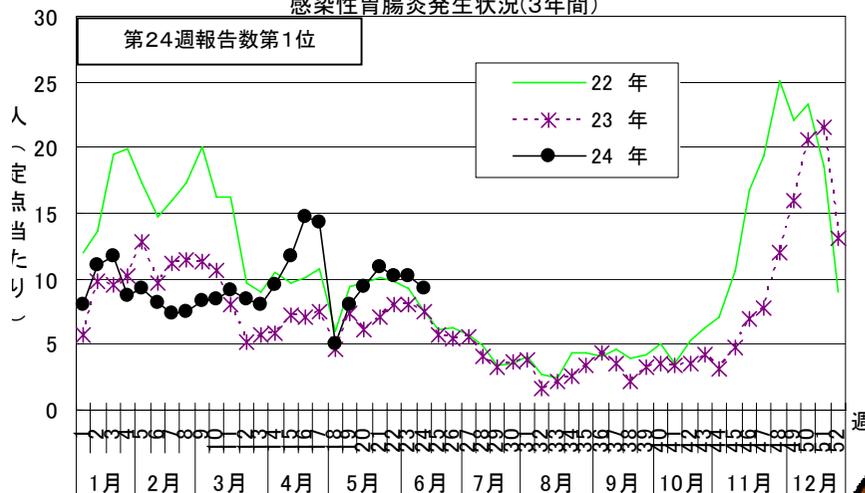
KAWASAKI CITY

平成24年6月11日（月）～6月17日（日）〔平成24年第24週〕の感染症発生状況

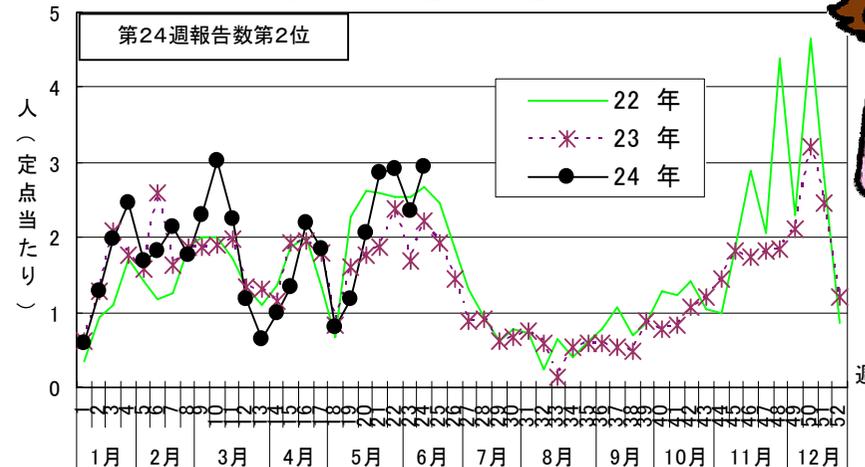
第24週で患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)水痘でした。

感染性胃腸炎は定点当たり9.31人と前週（10.59）より患者報告数はやや減少していますが、平成11年のデータ収集開始以来、同時期において最も多い報告数となっています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.94人と前週（2.44）より患者報告数が増加していますが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。水痘は定点当たり1.50人と前週（1.06）より患者報告数は増加していますが、例年に比べ低いレベルでの推移となっています。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



～そろそろ流行開始？ヘルパンギーナに注意！～

全国的に、また川崎市内においても、ヘルパンギーナの流行の兆しが見えています。右下のグラフのとおり、7月のピークに向けて患者報告数が増加することが推測されますので、今後の動向に注意するとともに、感染予防対策等を徹底しましょう。

ヘルパンギーナはどんな病気？

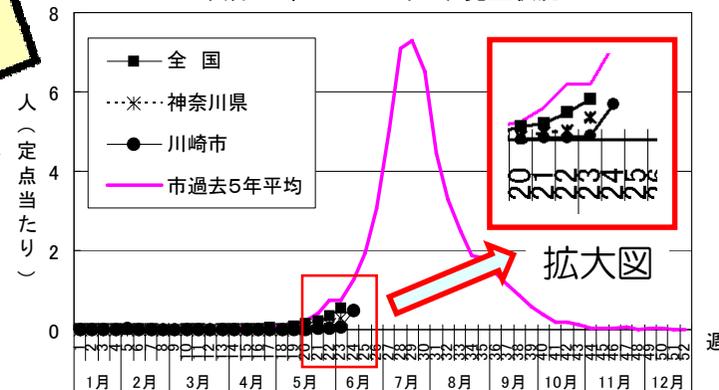
ウイルスによっておこる「夏かぜ」の代表疾患の一つで、4歳以下の子どもに多く発症します。

発熱とどの痛みが特徴で、のどの奥の方に小さな水疱が数力所でき、やがて小さな潰瘍となつて、飲食の時に痛みます。

十分な飲食ができず脱水状態になりやすいので水分補給に注意してください。



平成24年ヘルパンギーナ発生状況



ヘルパンギーナ対策は手洗いの徹底！！

感染経路は、くしゃみやせきによる飛沫感染のほか、のどや鼻の分泌物あるいは便の中のウイルスが、手などによって、口や鼻の中に運ばれて感染することが知られています。

効果的な予防法は、患者やその周囲の人たちが手をよく洗うことです。患者の便からは、症状がなくなっても、1か月ほどウイルスが出ている可能性があります。特に患者のおむつを替えた後などは、ウイルスが付着する可能性があるため、よく手を洗いましょう。また、患者のタオルの共用は控えましょう。